

## はじめに

令和5年答申「次期教育振興基本計画について」では、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。

子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、誰一人取り残さず、すべての子供の可能性を引き出すためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要です。

加えて、初等中等教育機関は、すべての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境でなければなりません。子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを創っていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供を支え、さらには世代を超えて循環していくという在り方が創られていきます。

そのためには、教職員が子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人一人の状況に応じた指導の充実が必要です。

令和4年答申「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」では、教職生活を通じた新たな教師の学びの姿が次のように示されました。

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」

教職員の学びも、日頃から子供たちに対して指導している学びと同じように、受け身の姿勢ではなく、主体的な姿勢が求められています。本県の「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に示す資質能力を基に、自らを振り返りつつ、課題意識をもち、探究的に学び続けることが大切です。

岩手県教育委員会は、新たな教師の学びの姿の実現に向けて、令和6年度から、全国教員研修プラットフォーム：Plant（プラント）を導入しています。これにより、教師と学校管理職との対話に基づく研修が推進され、教師自らが主体的な学びをマネジメントできるようになることが期待されます。

このような私たちの学びのすべては、岩手県教育振興計画の学校教育における目指す姿である「本県の子供たちが、自分らしくいきいきと学び、夢を育み、希望あるいわてを創造する「生きる力」を身に付けている」ことにつながります。私たちは、志を高くもち、たゆまぬ研究と修養に臨みたいものです。

この手引が、主体的・対話的で深い学びの実現と本県教職員の資質能力の向上の一助となりますことを心から願っております。

令和8年3月

岩手県立総合教育センター 所長